



辛亥革命撮影記録写真
攻撃を受け退却する革命軍(※)



革命の志士たちが寄せ書きをした衝立(※)

■ 孫文の目指した革命

孫文は、1866年広東省香山県(現在の中山市)の農家に生まれ、12歳のとき事業に成功していた兄を頼ってハワイに渡り、そこで西洋の教育を受けました。1883年に帰国し、香港で医学を修めマカオで医者として第一歩をしるします。1894年に再び渡ったハワイで興中会を組織し、欧米列強の武力を背景とした支配と無作為な清朝政府から中国民族を救い出すため、民族主義、民権主義、民生主義の3つから成る三民主義を唱え、その生涯を革命事業に捧げます。

■ 孫文と宋慶齡

孫文の革命事業は、挫折と失敗の連続でした。1911年の武昌蜂起により成立した南京政府の臨時大総統となり、辛亥革命が成功したかに見えましたが、いまだ衰えない清朝旧勢力を抑えるため、袁世凱に大総統の座を譲ります。袁による独裁が始まると、第二革命を起こしますが、袁の軍事力の前に敗れて、1913年日本への亡命を余儀なくされます。この日本への亡命の時期に、孫文は運命の女性・宋慶齡と出会い、梅屋庄吉・トク夫妻の骨折りにより1915年に結婚。生涯の同志となりました。

■ 女たちの革命

孫文は革命に生涯をかけ、梅屋庄吉は物心両面で孫文を支えることに生涯をかけます。彼らの果たした役割や業績は、その影に彼らを支えた宋慶齡と梅屋トクという二人の女性たちの力があつたことを抜きにしては語ることはできません。またそれが故に宋慶齡と梅屋トクの間には、時間の経過や国の体制、環境の変化などを瞬時に飛び越えられるほどの固い絆が結ばれていました。